

令和4年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案者

忍野村立認定こども園忍野幼稚園
園長 朝比奈たかみ

『小学校教育への連携に向けた子どもたちを想像し、生きる力をどう育てるか』
～日々の保育の中で必要な姿を身につけていく実践～

1. はじめに

本園は、「元気で明るいこども」「友達と仲良く遊ぶこども」「決まりを守って進んでなんでもするこども」「よく考え工夫するこども」を教育目標に掲げ、年齢や成長に合わせて日々の教育、保育を行っている。2018年より認定こども園となり、1号2号3号認定の子どもたちが一緒に生活している。自然に恵まれた環境にあり、園庭も広いため、身体を十分に使って遊ぶことができる。2018年に学習指導要領が見直され、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」が示された。年長の活動行事から幼稚園教育要領幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」とする具体的な視点から明確化し、小学校教育への接続と小学校への連携について考えた。

2. 実践事例

じゃがいもを育てていくという活動を通して、子どもの育てて欲しい姿を考えてみたい
○夕涼み会に向けての活動（年長）5月～ 《協同性》を中心に

【じゃがいもについて知る】5月9日

夕涼み会の行事を子どもたちに説明する中で、夕食にてじゃがいも料理を食べることを知らせ、7月の誕生会にもじゃがいもの芋煮会をすることを伝えると、年中時より畑で年長児がじゃがいもを育てていたのを見ていた子どもたちから「じゃがいもをつくるのが楽しみだった。」「早く作ってみたい」「年長さんしかできないんだよ」など聞かれ、絵本を見て興味を示した子どもから「きれいな花をさかせるんだよ」「沢山のじゃがいもができるんだよ」などの会話が聞かれる。

《自然との関わり・生命尊重》

行事を通して、じゃがいもの生長過程や食材に興味関心が持てるように絵本や図鑑を導入に使い、自分たちの畑で育てたじゃがいもを全園児が誕生会にて食べ夕涼み会の夕食に食べる楽しみに繋げ、畑での活動に意欲を持たせる。

【じゃがいも以外の畑で植える野菜を決める】5月9日

畑にて、じゃがいも以外の野菜を育てることが出来ることを伝えると、自分の知っている野菜、好きな野菜を口々に言う姿が見られたので、挙手して発表するように伝えると、「トマト」「カボチャ」「ピーマン」「なす」「スイカ」「人参」「いちご」などの提案があった。沢山の野菜名が出た為、畑の広さから全部は作れないことを知らせると、「みんなの作りたい多いものを畑で作るのは?」「スイカは絶対作りたい」「トマトを前の年長さんは作ってたよ」など、子ども同士で話し合いをする姿が見られる。多数決を取り、数の多い野菜（トマト・ピーマン・カボチャ・スイカ・なす）が決定した。

《言葉による伝え合い》

子どもたちの知っている野菜を聞きながら畑で作りたい野菜を決めていく。自信をもって手を挙げている姿を褒めたり、認めたりしながら意欲的に取り組めるように子ども一人ひとりの意見を聞く。いろいろな野菜に興味関心が持てるようにして、子どもたちの好きな野菜を畑で育てられるように環境をつくっていく。

【じゃがいも種芋まき】5月9日

一人ひとりシャベルとじゃがいもの種芋を渡し、土の掘り方や種芋の植え方を説明すると、自分でシャベルを使って穴を深く掘り、「先生このくらいの深さでいい？」と、確かめる子ども「虫がいる！」と、喜ぶ子ども・嫌がる子ども、「できない！」と、諦める子どもなど様々な姿を見せる子どもたち。嫌がる子ども、諦めている子どもには保育者が手を貸しながら一緒に取り組む。

《自然との関わり・生命尊重》

自分で植えたじゃがいもに愛着を持ち、植えた実感が持てるようにし、生長過程が楽しみになるようにする。子ども一人ひとりに合わせた援助をしながら全員が種芋まきができるようにする。



【苗をコメりに買いに行く】5月10日

コメりに野菜の苗を買いに行くことを知らせると、「やったー！お散歩だ！」「楽しみだね！」「おうちでもトマトの苗を買いに行ってきた！」など口々に言う子どもたち。店内に入る前に約束（走らない・触らない・他のお客様の迷惑にならないようになど）を確認すると、「知っている！」「早く行きたい」「このお店きたことある。」などと保育者に教える子どもたち。苗に興味を示し、「トマトがあった！」「カボチャがあった！」など興奮しながら指差しする子ども「沢山の野菜があるね」と嬉しそうに言う子ども、苗の形の違いに気づく子どもなど様々な姿が見られる。

《社会生活との関わり》

事前にコメりに子どもたちの選んだ苗が売っているか確認し、来店許可を事前に店にしておく。交通ルールを再確認し、危険のないように十分配慮し、店内に入る前に約束をしてから整列して、移動する。苗を子ども一人ひとりに見えるようにして見せ、色々な苗の種類（野菜の種類）があることを知らせ、野菜に興味関心が持てるようにする。そして自分たちの選んだ苗が買えたことを味わえるようにする。



【じゃがいも出芽・畑の草取り】6月22日

毎朝登園してくると廊下から畑を観察している子どもより、「先生！じゃがいもの芽が出てきている！」と職員に報告があるとそれを聞いていた子どもたちが廊下に集まり畑の観察が始まる。畑に見に行くと、「ぼくの植えたじゃがいもから出てる」「葉っぱが沢山出てる」「私のは、まだ出てない」などと報告がある。手で葉っぱを触る子ども、葉っぱの形を観察する子ども、葉っぱのおいさを嗅ぐ子どもがいる。「草がいっぱいある」「じゃがいもが見えなくなっちゃう」と会話していた為、草取りをする。「草をとれば大きくなるかな？」「明日は大きくなってるかな？」と、じゃがいもの生長を楽しみにしている様子が見られる。

《自然との関わり・生命尊重》《言葉による伝え合い》

じゃがいもの芽が出ていることに気がついたことを褒め、認める。どんな様子で生長しているか観察するため子どもたちを畑に誘い葉に注目できるように言葉かけをし、気付いたことに共感する。草があることを認め草取りをすることを提案し、じゃがいもが大きくなれないことを知らせ、草取りに意欲を持たせる。全員が土や草にさわられるようにする。更に、違う苗の生長にも気づかせるよう言葉をかけ意識させていく。

【夕涼み会夕食メニュー決め】7月6日

夕涼み会の夕食で、畑で作ったじゃがいも料理を食べる事を伝えると、じゃがいも料理を教えてくれる子どもたち。幼稚園で給食のメニューに出てくるじゃがいも料理を言う子ども、家で食べたことがあるじゃがいも料理を教えてくれる子どもがいる。「肉じゃが・ポテトフライ・ポテトチップス・ポテトサラダ・カレー」などが出た。じゃがいも料理が1品になることを説明すると、「多いものにすれば？」と、子どもたちから提案が出たので多数決を取り「ポテトフライ」に決定した。

《言葉による伝えあい》

じゃがいも料理を想像しやすいように給食のメニューを紹介したり、絵本や図鑑で紹介する。夕涼み会が楽しみになるようにしていく。全員が納得できるメニュー決めになるように子どもたちの声を聞く。

【じゃがいも掘り】7月11日

じゃがいも掘りをする事を伝え、じゃがいもの絵本・図鑑を使い土の中の様子を説明すると、「自分たちのじゃがいもは沢山できているかな？」「楽しみだな」と、口々に話す様子が見られる。畑に行き一人一株のじゃがいもを抜く。自分の植えたじゃがいもの場所を覚えている子、友だちと一緒に場所を抜きたい子ども、じゃがいもの茎を持ってない子ども、様々な様子が

ある。「1個のじゃがいもから16個できたよ」「草取りをみんなでしたから沢山できたね」などの声が聞かれた。

《自然との関わり・生命尊重》《数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚》

収穫の仕方や収穫の喜び、じゃがいもを食べる喜びへと、繋げる。子ども一人ひとりに合わせた援助をしながら全員がじゃがいも掘り体験ができるようにする。じゃがいもの収穫で大きさの違いに気が付き大中小に分け、数を数えることで数に興味を持たせる。じゃがいもの生長過程を振り返り収穫に感謝できるようにする。



【誕生日会芋煮会】(7月12日)

誕生日会にて食べるじゃがいもが畑で採れたじゃがいもであることを知ると、「自分で作ったじゃがいもはおいしいね!」「じゃがいもを沢山食べるともっと大きくなれるよ!」「沢山食べたから明日大きくなれる?」など言いながらおかわりをして食べる姿が見られる。降園時にお土産のじゃがいもを保護者に嬉しそうに見せ、「今日の夜ご飯にじゃがいもを使って、カレーにして!」「おうちに帰って、肉じゃがを作って!」などじゃがいも料理をお願いしている子どもがいた。

《思考の芽生え》

自分たちの畑で採れたじゃがいもを全園児が食べ、収穫のお礼を誕生日会の中で言われることで、年長児としての誇りを持ち年長児としての自覚が持てるようにする。降園時にじゃがいもを持ち帰れるように全園児のじゃがいもを袋に分けておく。

【キャンプファイヤーストーム作り】(7月18日)

夕涼み会の夜にキャンプファイヤーをすることを知らせ、ファイヤーストームの作り方の説明をする。二人組になり相談しながら木を組む子どもたち。「下の木とずれているよ」「もっとこっち」など木の置く場所を全体を見ながら置く姿が見られる。完成したファイヤーストームを見て大喜びの子どもたち。「キャンプファイヤーが楽しみだね!!」「早く夕涼み会をしたいね!!」と、楽しみにしている様子が見られた。

《協同性》

夕涼み会のキャンプファイヤーが楽しみになれるようにする。ファイヤーストームの木の組み方を理解できるように分かりやすく説明し、子どもたちだけで木が組めるようにする。

【夕涼み会】(7月21日)

夕飯時畑のじゃがいもで作ったフライドポテトを食べながら「自分で作ったじゃがいもはおいしいね!」「これは僕が作ったじゃがいもだよ」など言いながら嬉しそうに食べる。フライドポテトをおかわりして食べる姿が見られる。

《言葉による伝え合い・協同性》

自分たちがじゃがいもを収穫した喜びや、食べる喜びを味わえるようにする。夕食の前にじゃがいもの生長過程を振り返ったり、メニューをみんなで考えたことを振り返ったりする。

夕涼み会準備を通し年長の意識を強く持ち、毎日の活動に意欲的に取り組む姿が見られた。製作活動やグループ活動などを数多く経験することで子ども一人一人が「できた」喜びを通して自信を持ち、協同性や思考力などを高めることができた。レストラン完成時には全員で創り上げた達成感を味わうことができた。

【すいか割り】(8月26日)

自分たちで育てたすいかを観察していると、「このすいかですいか割りをすればいいじゃん！」という子どもの一言から、「大きいのが3つあるね！」など気が付き同調する子どもが多く、今年のすいか割り大会は、自分たちで育てたすいかで行うこととなった。

《自然とのかかわり・思考力の芽生え・言葉による伝えあい》

自分たちで育てた野菜で全園児が行う行事になる事で役立てたという気持ちを持てるように自然への感謝の気持ちや実際にできた事への喜びを味わう。



○小学校への連携のための取り組み

- ・6月散歩時期に小学校の敷地を散歩コースに入れる。
- ・2月「小学校はたのしいよ!!」として1年生と触れ合い学校体験に行く。1年生の教室にて学校の1日の様子(朝の会~授業~帰りの会)を1年生が体験を通して知らせたり、子どもたちも椅子に座り話を聞いたりする。校内の図書室や音楽室などを案内してくれる。(去年はコロナ感染予防の為ビデオ作成していただき園にて見た)
- ・2月小学校1年担当の教諭と情報交換 幼稚園より子ども一人一人の様子を知らせる。クラス編成についての配慮点や注意点の伝達をする。学校より1年生の様子の報告がある。

3.おわりに

成果と課題

小学校教育との接続について「10の姿」を保育者が再確認し今までの自分たちの固定観念や保育を振り返り、目の前の子どもの発言や発信していることに気づき共感できた。

職員一人一人の言葉かけや関わり方、日々の保育内容が子ども一人一人の成長に大きく影響

するため成長の変化を見落とさず関わっていくことが必要である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を子ども一人一人に対して確認し、日々の保育から学ぶことができるよう保育内容を考えていきたい。幼稚園教育要領「10の姿」にあてはめようとせず、幼児が生活や遊びの中で感性を働かせて良さや美しさを実際に触れることで感じられるように工夫することが重要であると感じた。5領域が幼児教育や保育の核となる要素であるのに対し「10の姿」は小学校での教育も考慮して5領域をさらに細かく分類したものと言えるでしょう。「10の姿」は小学校入学までに身につけるべきものではなく、小学校入学した後も継続して育てていくものと考えたい。

最後に

幼児期は文字や数字に関心を持ち、生活の一部として、豊かな体験を通して積みあがっていくものである。

行事等の生活体験を通して、伝え合いや絵を描くことで表現し、遊びや活動では体全体(五感)で感じ学んでいる。幼児期の体験が「10の姿」の土台となり、小学校では文字や数字の読み書きから始まるので、読める、書けるという面白さ、学ぶことの楽しさを味わってもらいたい。

忍野幼稚園では、学びの中の必然性を引き出す工夫として、子どもたちが主体となれるよう情報交換や、メモを通して子どもの姿を把握する。その実態の中で活動に向けていかに興味・関心を持って意欲的に取り組めるか考え、意図をもって準備(環境構成)し、また実践活動での言葉がけを常に意識している。